

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-192197

(43)公開日 平成9年(1997)7月29日

(51)Int.Cl.⁶

A 6 1 H 35/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 6 1 H 35/00

技術表示箇所

Q

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号

特願平8-38617

(71)出願人 596025884

矢中 正晴

(22)出願日

平成8年(1996)1月22日

大阪市旭区赤川2丁目1番26号 株式会社
マノール内

(72)発明者 吉田 頼

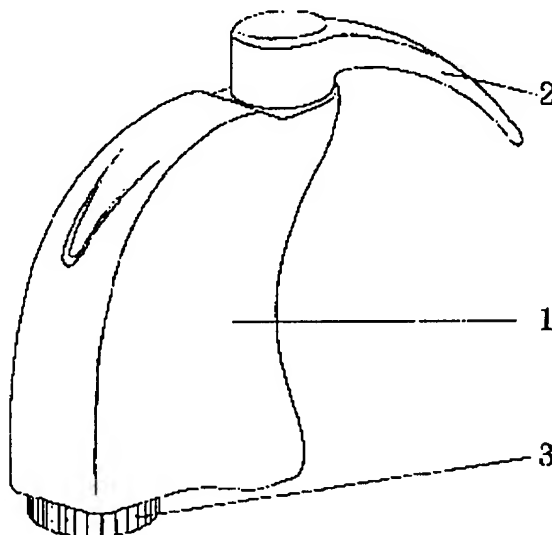
東京都江東区東陽7-2-34-508

(54)【発明の名称】 人体局所の携帯用洗浄器および使用方法

(57)【要約】

【課題】 製造コストが安く、軽量かつコンパクトであり、効果的な洗浄能力を上げ、携帯する時に収納し易く、安全で簡便に利用できる人体局所の携帯用洗浄器を提供する。

【解決手段】 本体容器1の上部に液体射出孔を設け、任意の方向に回転可能な液体射出ノズル付きキャップ2を装着し、さらに本体容器1の底面の一部に、液体注入口を設け、キャップ3を装着することを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体容器1の上部に、任意の方向に回転可能な液体射出ノズル付きキャップ2を装着し、本体容器1の底面の一部に、液体注入口を設け、キャップ3を装着した人体局所の携帯用洗浄器。

【請求項2】 本体容器1の上部に装着されているキャップ2の凸環状内径部に対応して、本体容器1側には凹環状外径部aを設け、さらにその凹環状外径部a上に、より小さな凹環状外径部bと液体射出孔cを設けた人体局所の携帯用洗浄器。図4参照。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は人体の局所、主に女性陰部と肛門部の携帯用洗浄器に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の携帯用ビデとしては、電動式のもの、手動式のもの、および使用時に水道設備を必要とするもの等がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来の電動式携帯ビデは、手動式のものに比べて、かなり高価なうえ、軽量化にも限界がある。他の手動式のものについても、使用準備に手間取り、収納するのに不便な形態をしている。

【0004】 本発明は、安価であり、ワンタッチ使用を可能にし、効果的な液体射出力と的確な洗浄操作を簡便に行えることを目的とし、さらに、収納に便利な形態と安全性を追求している。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、本発明は、本体容器1の上部に、任意の方向に回転可能な液体射出ノズル付きキャップ2を装着し、本体容器1の底面の一部に液体注入口を設け、キャップ3を装着した、以上のような構成よりなる手動式の携帯用洗浄器である。

【0006】

【発明の実施の形態】 本発明の実施の形態を実施例にものとづき、図面を参照して概要から説明する。

【0007】 本体容器1の底面を上方にして、キャップを外し、その液体注入口から液体を注入する。

【0008】 図1と図2参照。

本体容器1の正面部に固定されている液体射出ノズル付きキャップ2を、任意の方向に半回転させる。

【0009】 図6参照。

本体容器1を片手で持ち、さらに本体容器を押圧することで洗浄液を必要箇所に射出することができる。

【0010】

【実施例】 本体容器1の上部に装着されているキャップ2は、そのキャップ内径に凸環状内径部を設ける。

【0011】 図4参照。

キャップ2のキャップ内径に対応して、本体容器1側に

は、凹環状外径部aを設け、さらにその凹環状外径部a上に、より小さな凹環状外径部bと液体射出孔cを設ける。

【0012】 本体容器1とキャップ2は、上方からの圧力によって装着される。

【0013】 キャップ2のスムーズなはめ込みを可能にするため、本体容器1の両方の側面に位置する外径上部に凹状の溝を形成し、キャップ2の凸状液体流入口と凸状フックを通し易くしている。

【0014】 このキャップ2の凸環状の内径部と、本体容器1の外径部は、キャップ2が回転する際に、脱着防止だけでなく、回転レールの役目も備えている。

【0015】 図9参照

液体射出ノズル付きキャップ2は、キャップ内径の凸環状内径部に小凸状のノズル液体流入口dと、その180°回転した位置に液漏れ防止用の小凸状フックeを設ける。

【0016】 図5参照

本体容器1の液体射出孔Cは、洗浄器の使用状態にある時のみ、キャップ2のノズル液体流入口dと合致され、本体容器1の押圧によって、液体が射出される。

【0017】 キャップ2のノズルが収納時に本体容器1の正面部に固定されている状態にある場合は、キャップ2の液漏れ防止用の小凸状フックeが、本体容器1の液体射出孔cと合致させて、本体容器1内を密閉できる。

【0018】 このキャップ2の凸環状内径部に設けられた小凸状のノズル液体流入口dと小凸状フックeの二つは、本体容器1の小凹環状外径部bをレールとして回転できる。

【0019】 さらに、上記のことは、キャップ2の凸環状内径部に対して、本体容器1の小凹環状外径部bが溝状の隙間を形成しているため、摩擦係数を下げ、いっそうのレール効果を生むことができる。

【0020】 本体容器1の底面部に設けてある液体注入口は、口径を大きくしてキャップ3も摘まり易く、開閉、液体注入が簡便にできる。

【0021】 図6参照。

本発明の使用に際して、本発明の形態そのものが人体構造に適合し、前方、後方のいずれからでも簡便に使うことができる。

【0022】 従って、洗浄液が的確な箇所に射出されるように、キャップ2のノズルの角度も設定され、洗浄液の射出量と射出力のバランスを考慮し、効果的な洗浄能力を得ている。

【0023】 キャップ2の液体射出ノズルの先端を人体を傷つけないように、丸くし、携帯時にはノズル部分の弾性が働いて、本体容器1の正面部に固定できる。

【0024】 本発明は、基本的形態を互事典型から発想しており、ホシエット等への収納がし易く、狭い所に収めるにも便利である。

【0025】

【発明の効果】本発明は、製造コストが安いばかりでなく、広く人々に使用されることで、貴重なバルブ資源を節約でき、保健衛生上の一歩進んだ常識を人々のものにする事ができる。

【0026】もともと、本発明は、発明者が登山中に、ナリ紙等で自然環境が汚されているのを見て発案されたものである。

【0027】よって、軽量かつコンパクトであり、フックタッチ感覚で簡便に取り扱え、使用時の安全性を追求して発明されている。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の、キャップ2を固定した場合の斜視図である。

【図2】本発明の、キャップ2を使用可能状態にした場合の斜視図である。

【図3】本体容器1のキャップ2が装着される部分の正面拡大図。

【図4】本体容器1のキャップ2が装着される部分の背面拡大図。

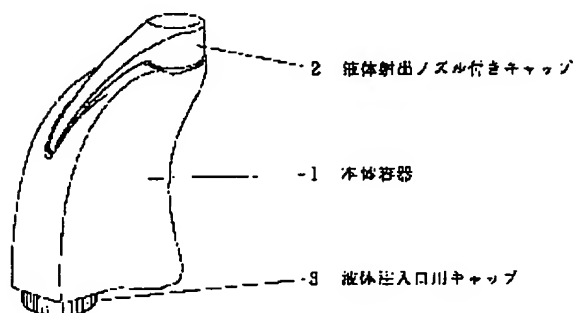
【図5】本体容器1にキャップ2が使用可能状態で装着された場合の部分拡大断面図。

【図6】本発明が使用されている場合の図。

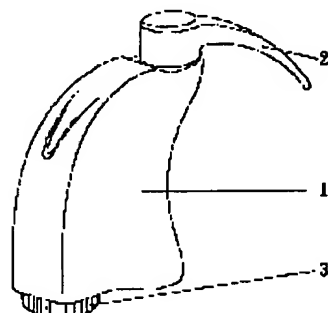
【符号の説明】

- 1 本体容器
- 2 液体射出ノズル付きキャップ
- 3 液体注入口用キャップ
- a 本体容器1のキャップ2に対応する凹環状外壁部
- b 本体容器1の、より小さな凹環状外径部
- c 本体容器1の液体射出孔
- d キャップ2のノズル液体流入口
- e キャップ2の液漏れ防止フック

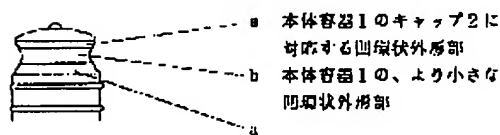
【図1】



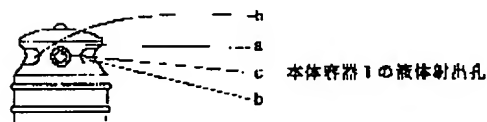
【図2】



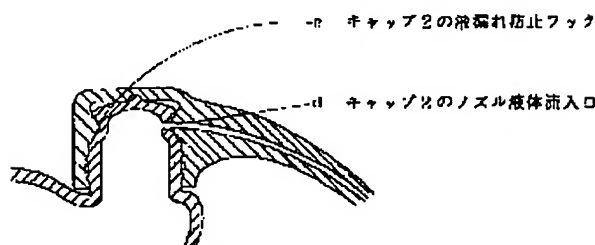
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

